



田舎源氏

二十九



~ 13
3742
29



東都禾木園宗匠校輯

俳諧芳州集 全三冊

俳諧叢蘭集 全三冊

東都禾木園宗匠校輯

俳諧今人附合集 全四冊

新刊板

俳諧今四歌仙全冊
梅室禾木園兩小圃四大
人の他志に尾の能酒當時
の流りかきり見止る法也

田舎源氏友相抄かみ
たし
上仕立

以多のいかに中へかゝる公のうら美氏おもしろく考れば古と
よび二葉のていそふのいかに人のいかにのむねをけしめりける
あられのさかすか若のむらひ小紙とてまたたかまたたか
二葉のいかにのむねをけしめりけるあられのさかすか若のむらひ
小紙とてまたたかまたたか二葉の上の草葉
のむねをけしめりけるあられのさかすか若のむらひ小紙とて
またたかまたたか二葉の上の草葉のむねをけしめりけるあられ
のさかすか若のむらひ小紙とてまたたかまたたか二葉の上の草葉

俳諧同人集
同輯

浄子遊袋入
種彦聞書

小繪さくし
貞秀画圖

火焚むくア
全冊 咄さらち免んく 全三冊

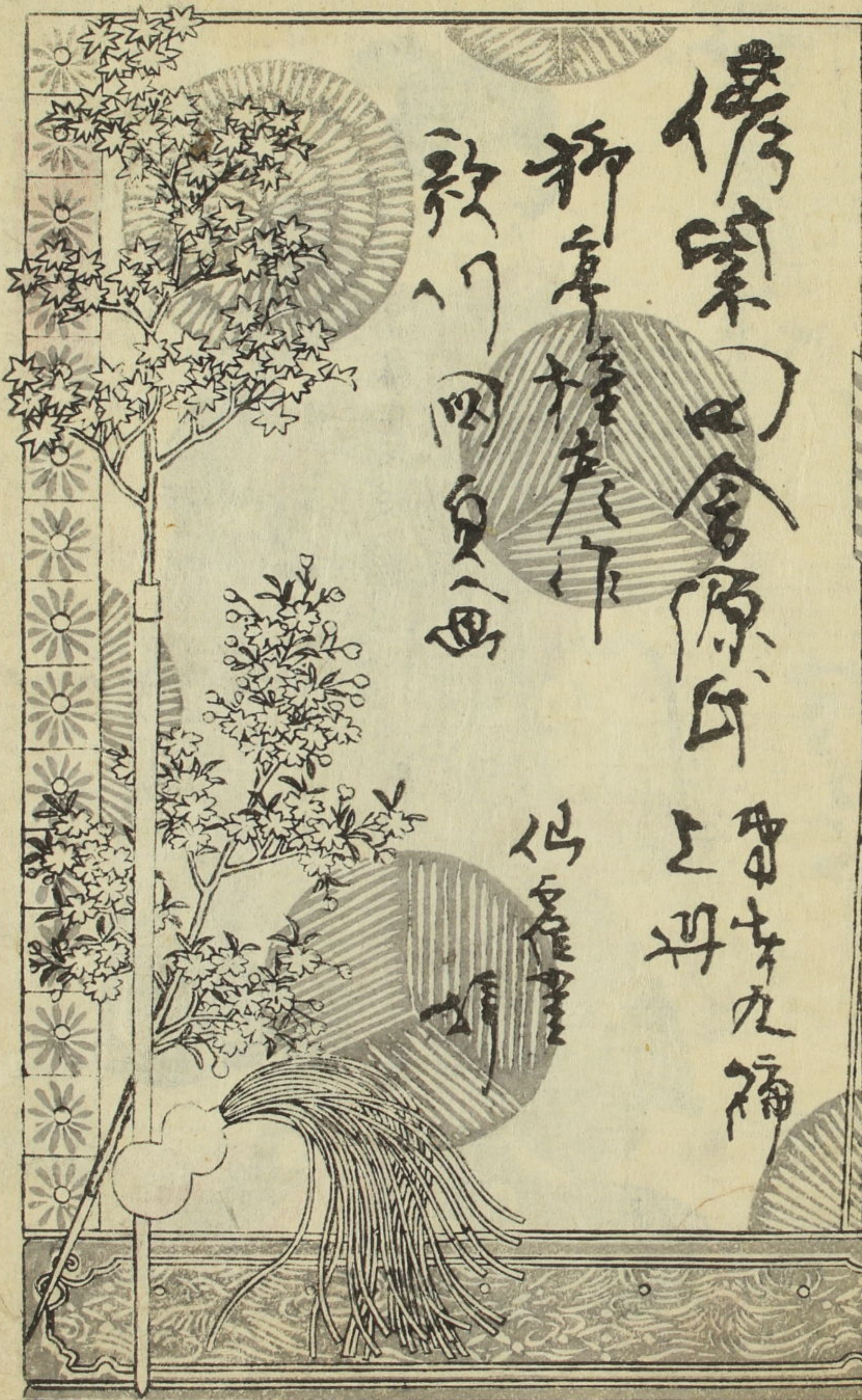
茶番のいろは
全冊 咄浦島爺 全三冊

江戸御曆開板所
鶴屋喜右衛門

俳諧の田舎源氏
母年九福

新年権左作
仙居書

教門問答画
仙居書



九九編下



乃
日
不
智
集

九九編上



鐘
彦
作
國
貞
画

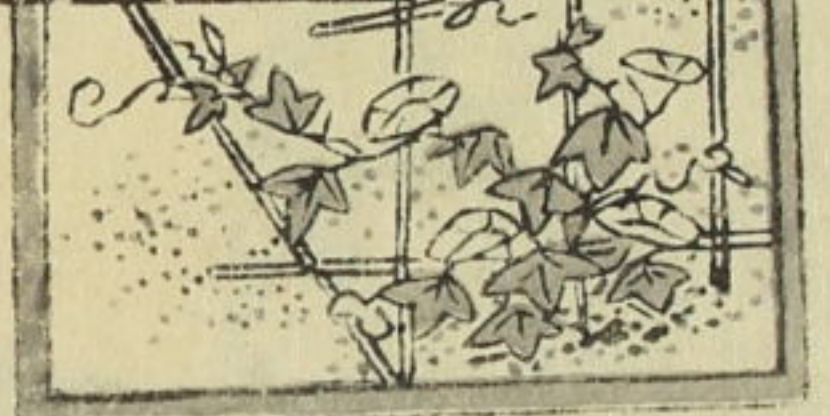
乃

門へ13
3742
巻 29

為下
下丹

三好

此の
銅の
の



後天
固貞

通由
得在

田舎源氏第廿九編序

小倉山房城定家卿の日記とありえ善悪圖傳を悪玉踊りの書の事

と思ふはあつてあるの早點頭又その草紙を或人讀んで源氏物語の名

も似せ義経も弁慶も見えぬといふと雜トといふ座敷を最をうし

予合てしつゝ病の林示厭ふ鞍馬山に登るといひ實の僧正の劍術とある

五條あるの病の病ででの千人斬亀井戸園伊勢の齋院海尊

扇の的を桂樹が小弓で射させ山名の討ちが鶴越を坂落し

須戸の巻彼浦その所積の日浪風あつて光氏が船の危きところへ

柳これいと知盛の幽霊があられて悪源太の亡魂がある雷とありて

源氏廿九編



菊咲の母
鍊蔓

るけて敵とらむ。遠坂の関の日に富樫が留るといふ。彼旗色の
 紅白源氏平家の事まで終りて入る。からんが初めも更心の
 つらさう。儲の編の鈍色の袖をかへて人目と招く。落雲をとりて
 朝顔も。宗盛の事へる。五郎の舞の静も出され。八艘舟の浮舟
 何うへうつらむと思ひ。田貫が切腹の儀式の正本の巻の巻の
 例の我依。さうやう琵琶でうひさうる伏見常般をそのめり。彼
 雛問を防がし。丁度所も堀川夜討女似と氣る。何と兵庫懐
 の相袂子あしツ道具のありのやせんと。拍子よからて書つくと光
 源氏と源が混雑て予ふも分らぬ。見あふ人の後。又あふ夢の浮橋
 こそえしと未まをいおつる。れども二十帖稿を脱ま

柳亭種彦

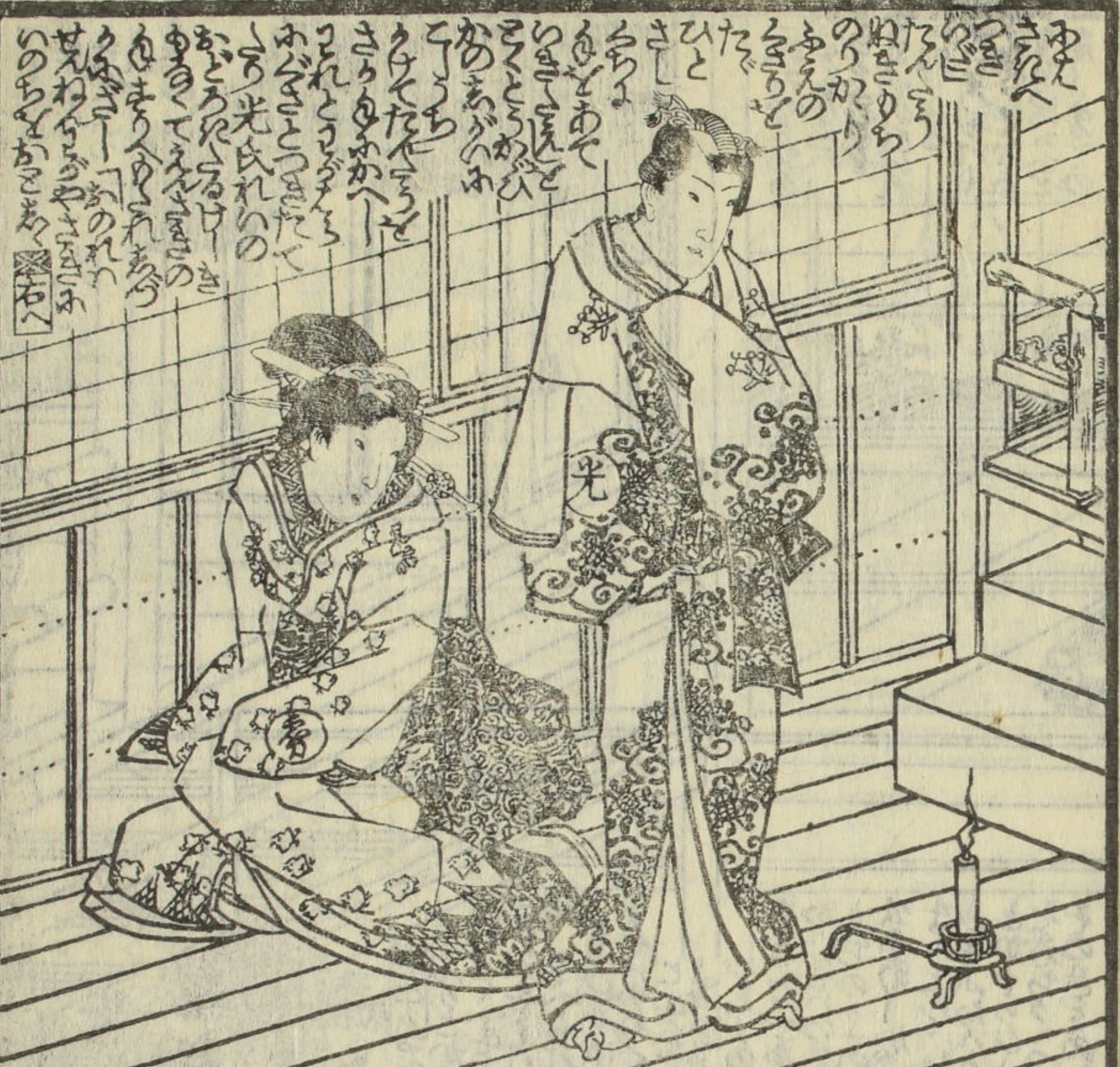


つばきを
昔より
思ふ
人の
こそ
つばき
そふ
ほつたれ



あふかえ
ええん
人のうふ
ありと
あふ
ふたあり

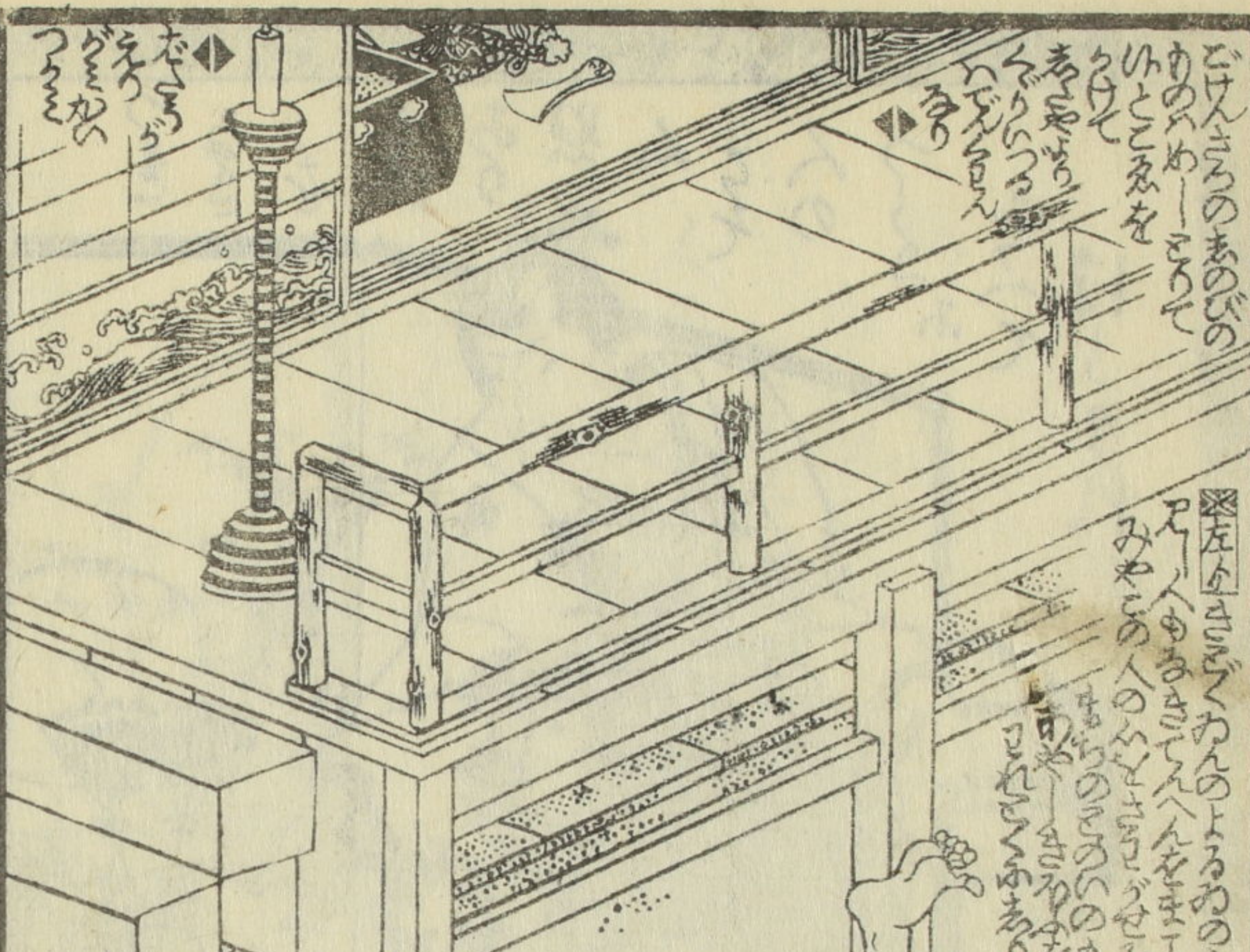
菊咲
あふかえ
ええん
人のうふ
ありと
あふ
ふたあり



あつて
さういふ
かたは
さういふ
かたは
さういふ
かたは
さういふ
かたは
さういふ
かたは

源氏物語

あつてかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは



あつて
さういふ
かたは
さういふ
かたは
さういふ
かたは
さういふ
かたは
さういふ
かたは

あつてかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは
さういふかたは

源氏物語

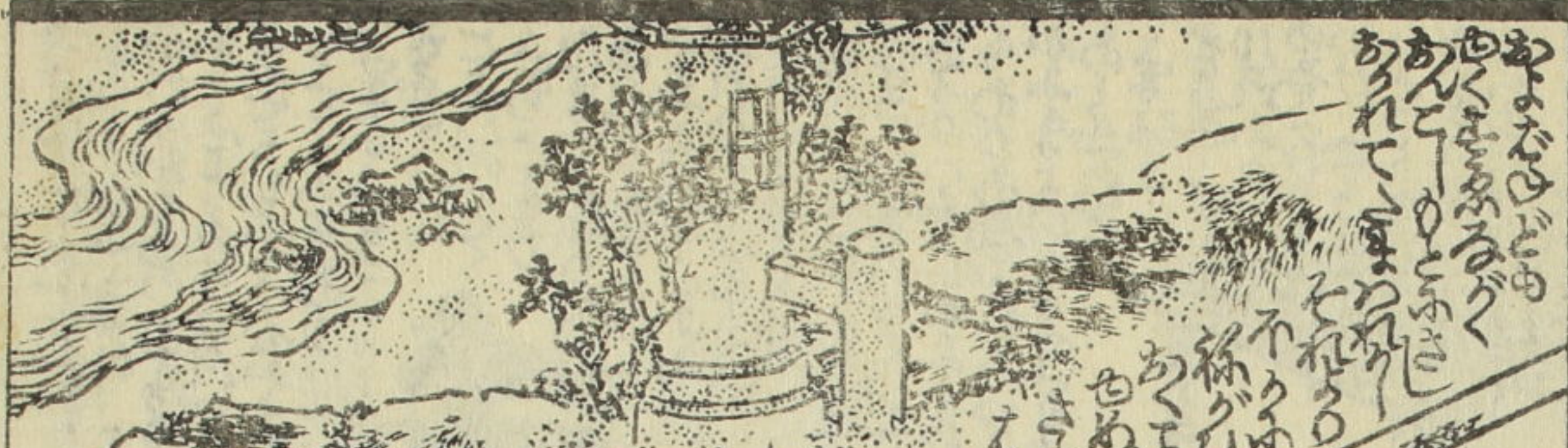


源氏物語

源氏物語

大

三



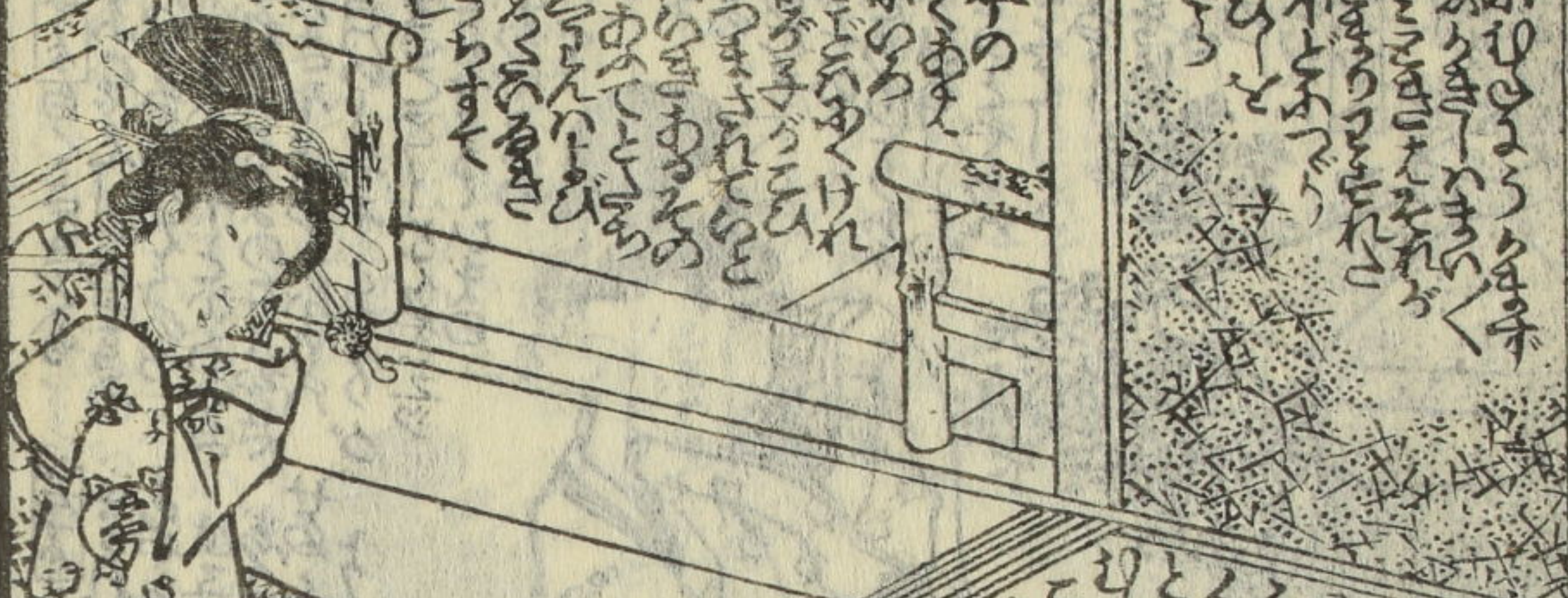
あつたてゝまゝの
あつたてゝまゝの
あつたてゝまゝの



あつたてゝまゝの
あつたてゝまゝの
あつたてゝまゝの

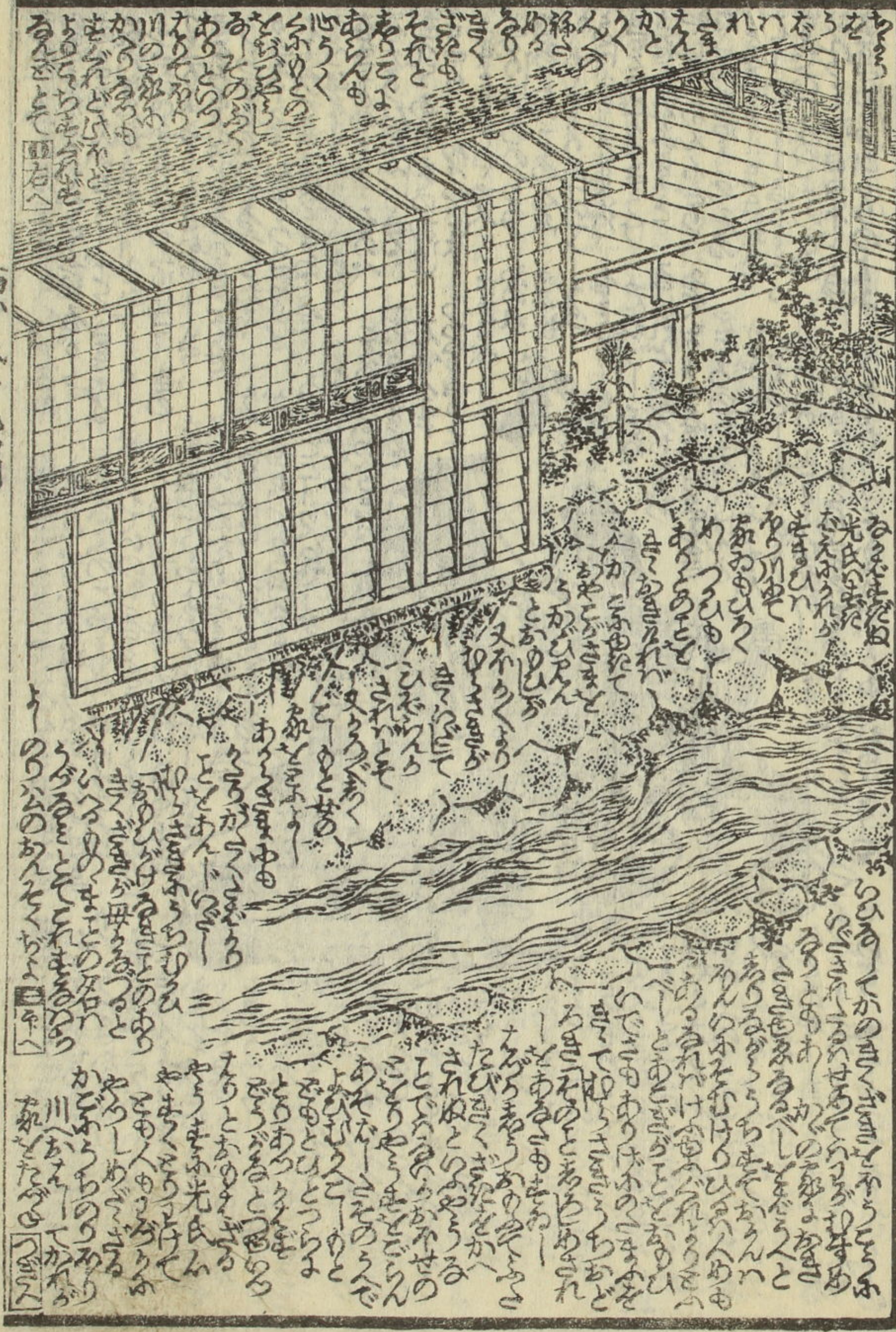
源氏廿九巻

あつたてゝまゝの
あつたてゝまゝの
あつたてゝまゝの



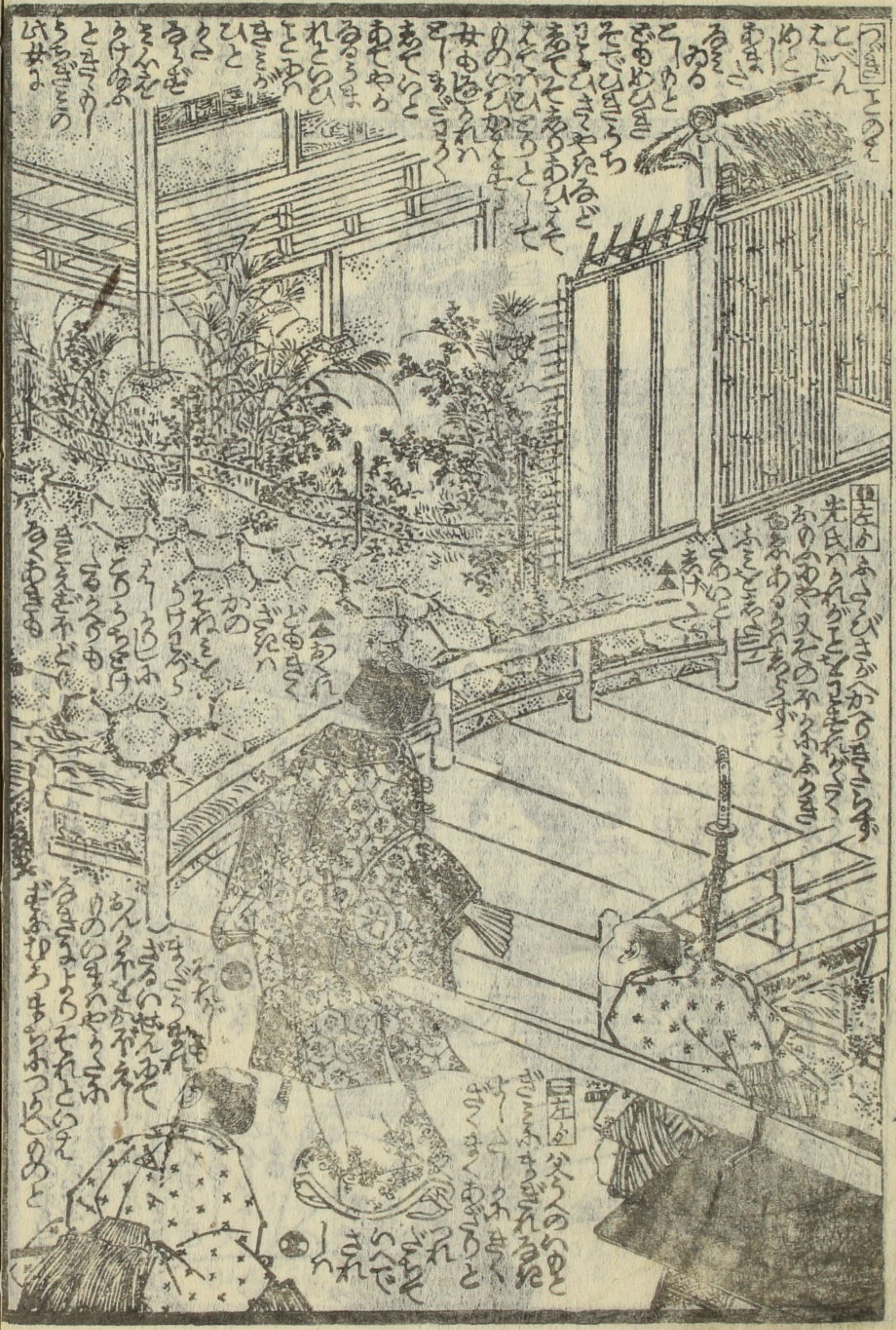
あつたてゝまゝの
あつたてゝまゝの
あつたてゝまゝの

源氏廿九巻



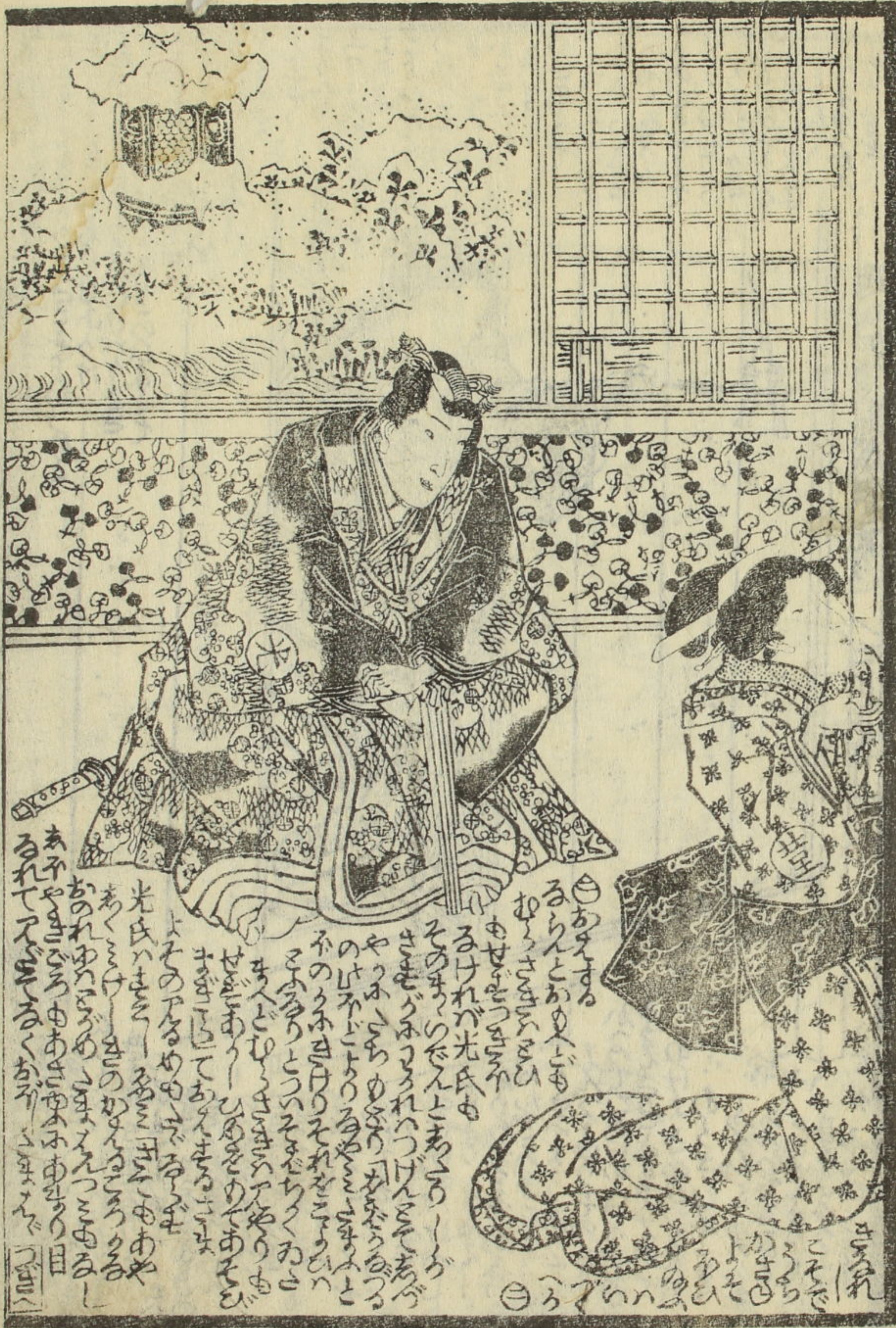
源氏廿九編

七



源氏廿九編

七



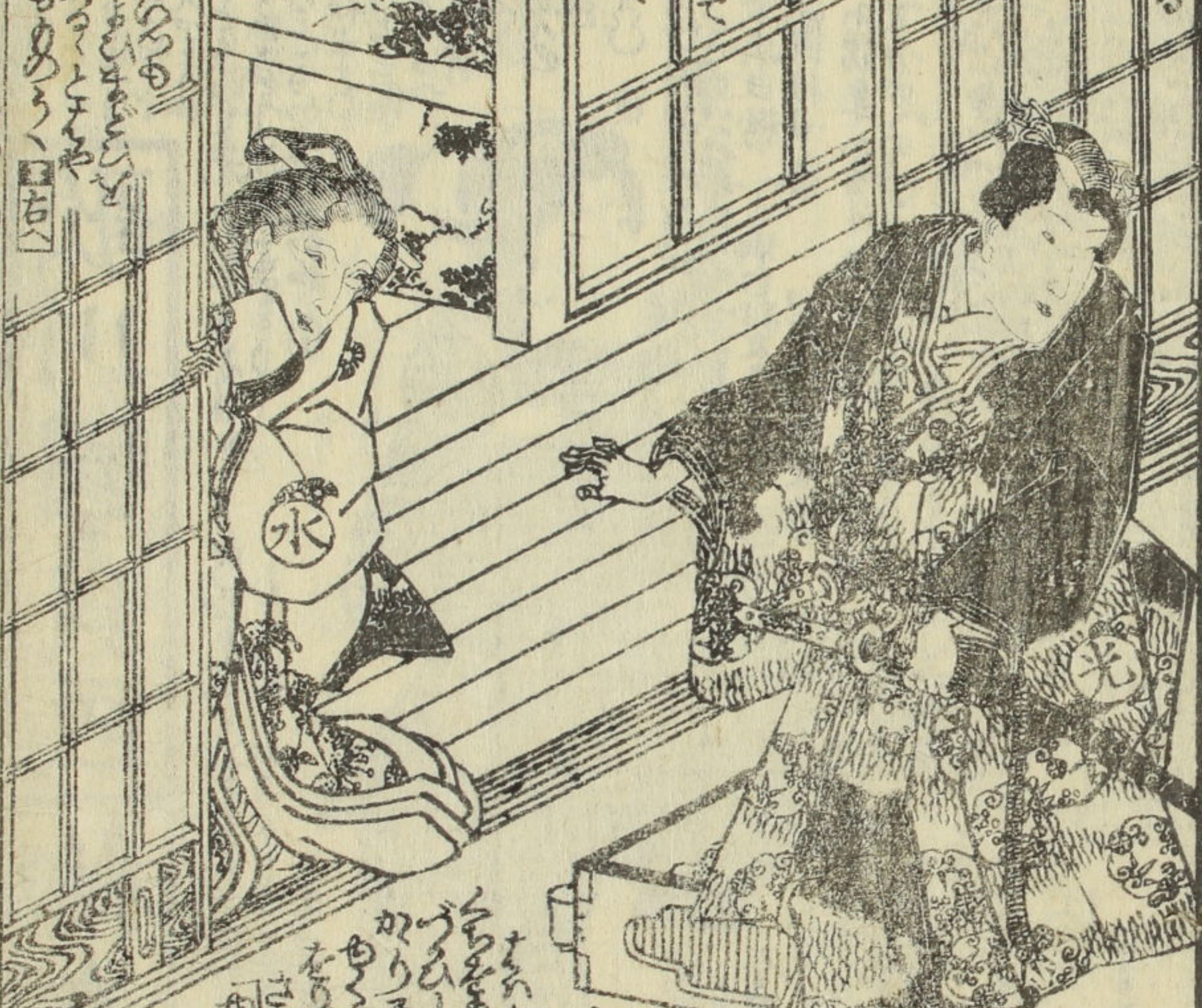
原八十五編

光氏はまゝ一多量に由あり
 あれゆりてあはれまゝの目
 るれてアスきくちかすま
 光氏ハまゝ一多量に由あり
 あれゆりてあはれまゝの目
 るれてアスきくちかすま



光氏ハまゝ一多量に由あり
 あれゆりてあはれまゝの目
 るれてアスきくちかすま
 光氏ハまゝ一多量に由あり
 あれゆりてあはれまゝの目
 るれてアスきくちかすま

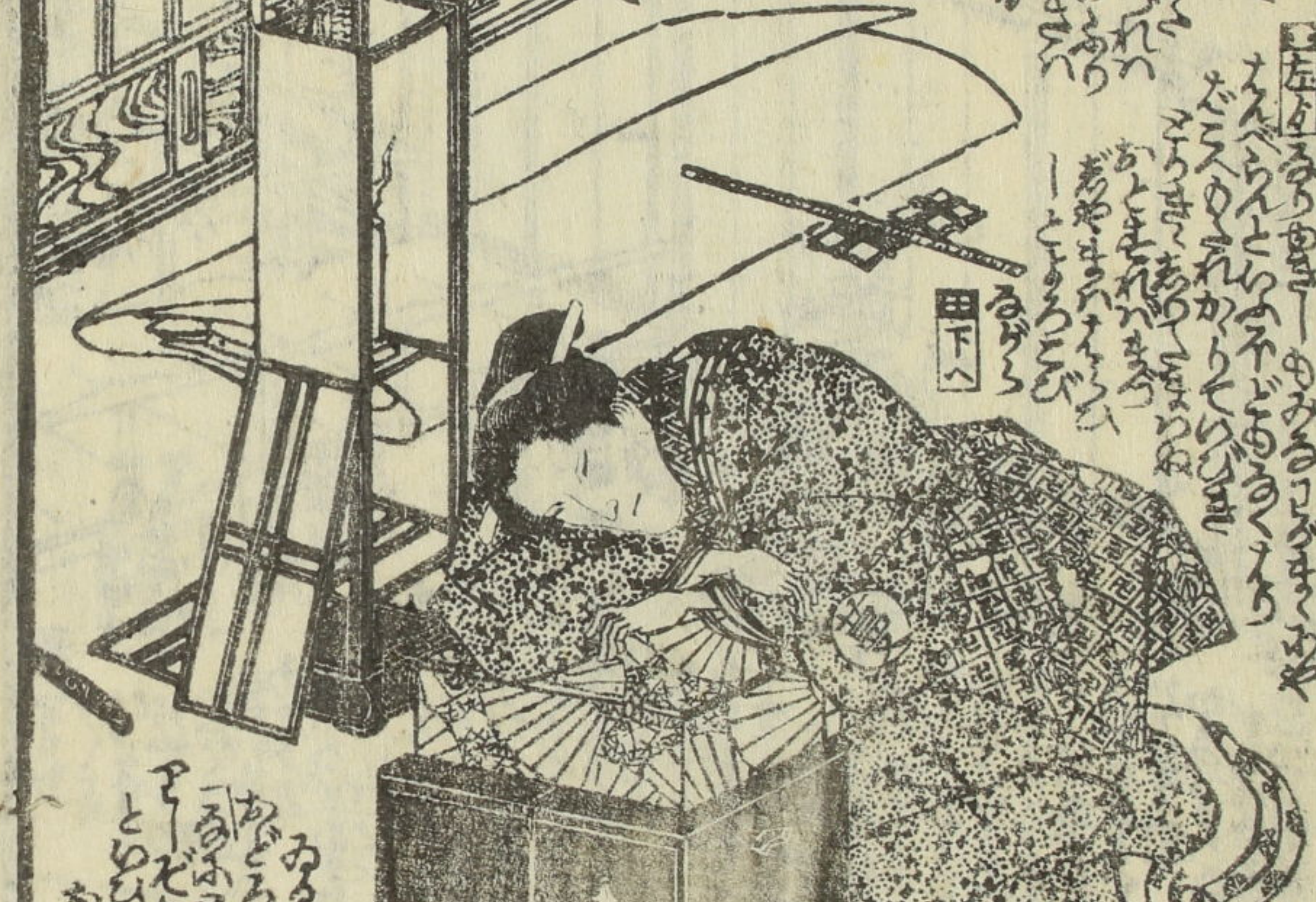
左の女は...
 右の女は...
 水...
 光...



この女は...
 年月の...
 光...

原八十九巻

左の女は...
 右の女は...
 水...
 光...



この女は...
 年月の...
 光...

天保十年己亥初春新彫

歌川國貞画 柳亭種彦作

そのまゝのうらみへ
まあるるとのちりつ
あつらひをきき
そのまゝのうらみへ
まあるるとのちりつ
あつらひをきき
そのまゝのうらみへ
まあるるとのちりつ
あつらひをきき



精製御白粉 御白髪染茶
美艷仙女香 黒油美玄香
月小橋年おま 御用おやくおせせと
ありかたのく 制衣方念入ひある不
南徳馬町子目 坂本氏
清書 金川

倅紫田舎源氏

鳥有山人作 歌川國貞画

捕一代記 五冊 烏有山人作 歌川國貞画

百人一首雅講釋 八冊 山東京山作 歌川國貞画

清盛一代記 五冊 烏有山人作 歌川國貞画

無筆節用似字盡 各再板 歌川國貞画

柳亭種彦作 歌川國貞画
佐野渡忍敵懸橋 緑亭仙橋作 全六冊
櫻風呂花半開 白雲洞主人作 全四冊
藻塩州須磨書替 松下樓麓谷作 全四冊
五雲亭貞秀画

美艷仙女香 四十八銅
黒油美玄香 三百西銅
坂本氏製



書物錦繪 問屋

江戸通油町 鶴屋喜右衛門

